

科目「中学美術」シラバス

1. 中学3年間での教科到達目標

①絵画、立体、デザイン、工芸を中心に美術を通じて材料の扱い方や基本的な表現手段の基礎を習得する。	②創造的な感性と個性を活かし、芸術性の追求を目指す。	③ 美術の授業を通じて、芸術を愛好する豊かな情操を育み、個性を認め合う、柔軟でおおらかな鑑賞力と知識を習得する
--	----------------------------	---

2. 科目の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 美術 科目 美術 2	1 単位	第2 学年	教科書：美術 2. 3 上学びの実感と広がり 日本文教出版 副読本：新造形と美術 浜島書店
学習の到達目標	豊かな鋭い感性を働かせることにより、美術を自己表現の手段として考え、創造していく技術や、描写力、発想力を身に付けていく。		
評価の観点	<知識・技能> 基礎的な描写力と、技術。作品に対する真摯な取り組む姿勢を評価する。事物をよく観察し作品が完成していくまでの作業工程が丁寧であり、熟考されている。 <思考力・判断力・表現力> 作品に対しての思考や責任感。個性豊かな表現力を評価する。素材の特性を活かし表現することができる。 <主体性・多様性・協働性> 授業中の主体性を持った制作態度と、個々の作品を認め合う柔軟でおおらかな視点を評価の対象とする。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
- D：未提出、未実施・・・0%

【教科横断、外部との連携】

- ①授業中制作した生徒の作品を公募展に積極的に出品する。
- ②日本、世界史を踏まえて、美術史を学び、多くの芸術的作品を鑑賞する。

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期	美術ガイダンス	○一年間を通じて教科書と副読本を活用する。 ○足りない絵の具の購入。希望者に告知する。	○美術の授業に必要な道具類の把握。教科書と画材等に、名前記入をすることで紛失予防の徹底。
4 月	① 美術の教科書紹介 ② 美術の授業でのパソコンの扱い方の説明。	○ネット上の画像検索の仕方についての注意点を、生徒に周知させる。	○パソコン、備品の扱い方の周知で生徒の制作が行いやすくなる。 ○欠席者への配慮。
5 月	○1 学期課題 「名前のポスター」 デザイン基礎 レタリングの応用 ①エスキース	○ロイロノートに参考資料画像を配信する。 ○「名前のポスター」のデザインを考え、エスキースを描く。	○鉛筆、定規、コンパスを用いて図面の下描き制作。 ○教科書 P40～41 ○副読本 P50～57
6 月	②下描き（鉛筆） ③着彩 アクリルガッシュ絵の具を用いる。 ①技法を学ぶ。	○過去の参考作品を鑑賞し、自身のアイデアの参考にする。 ○画用紙 1 枚分の大きさの紙にレタリングと絵の要素を取り入れ、平面構成を行う。 ○絵の具や筆の使い方を学ぶ ○グラデーション、スパッタリング、ブラシ、マスキングテープの使い方を学ぶ。	○参考作品や資料を参考にし、自分のアイデアをまとめる必要がある。 ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。欠席者に対応。 ○様々な技法を着彩しながら習得する。スケッチブック、アクリルガッシュ絵の具セットを使用する。
7 月	②仕上げと提出	○水彩絵の具風の画面の着彩の仕方と、マットな画面の着彩の方法を学ぶ。 ○作品に題名、学年、氏名の書いた名札を貼って提出。	○提出場所は美術室の乾燥棚 ○欠席者に対応する。ロイロノートに画像を提出させる。

夏休み課題	○夏休みの課題 「音楽の世界を絵画で表現する」 画材は自由。 画用紙 1 枚に描く。	○題材となる音楽のジャンルはポップス、クラシック、etc. と自由である。生徒がより主体性をもち、制作することを旨とする。 ○作品の裏面に選んだ音楽の説明文を記入し、自分の作品を紹介する。	○各自のスケッチブックを用いて画用紙 1 枚に制作する。 ○参考作品の画像を配信する。 ○2 学期最初の授業内に提出をする。
2 学期 9 月 10 月	○2 学期課題 木版画 単色一版刷り 「生き物」 ①エスキース ②下描き ○文化祭の展示のための作品準備。 ③下描きをトレーシングペーパーに写す。 ④版木に転写する。 ⑤墨描き 面相筆で輪郭線に濃い墨描きをする。 彩色筆で背景など全体的に薄墨を塗る。	○伝統的な技法を用いて木版画を制作する ○彫刻刀の扱い方や技法を学ぶ。 ○教科書の参考作品と、過去の美術の授業で制作した参考作品を鑑賞する。 ○木版サイズに合わせ、下描きを完成させる。 ○1 学期課題作品、夏休みの課題の展示用の準備を行う。 (名札、台紙貼り、ファイル) ○線がずれないように注意。 ○トレースした絵が反転するように版木に転写する。 版画技法を学ぶ。 ○濃い墨と薄墨の使い方を学ぶ。 ○墨描きの技法を説明し、理解させる。	○教科書の P24～31 ○副読本の P28～29 ○テーマ 「生き物」に合わせ、スケッチブックにアイデアスケッチを描く。 ○参考作品の鑑賞をして、自分の制作のアイデアのヒントにする。 ○欠席者に対応。 ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 ○美術係を中心に授業中に制作した作品の展示準備を行う。 ○材料の紹介、使い方の説明をする。 ○版木制作の注意点 ①下描きの転写方法。 ②服装の準備。 ③彫刻刀の扱い方や技法。 ○ロイロノートにレクチャー画像を送る。 ○生徒の作品に個々に対応する。

11月	⑥彫刻 各自、彫刻刀を用意する。	○画面が乾燥したのち彫刻する。 ○彫った所が白く仕上がる事を念頭に置いて彫り進める。 ○彫りの技法を学ぶ。 ○画面の白黒のバランスを考え、彫り進める。 ○版木の四隅を彫りすぎないように注意。	○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 個々の欠席者に対応した配信を考える。 ○持っていない生徒に彫刻刀の貸し出しを行う。 ○彫刻刀の注意点 ①持ち方 ②刃先のコントロール ③固定板の使用方法。
2学期	⑦刷り 試し刷り ①各自の机で刷るため。 準備をする。 ②インクつめ ③刷り ⑧本刷り	○試し刷りを行う。 試し刷りを行うことで彫りなおし箇所が把握できる。 ①新聞紙を机の上に敷く。 ②台紙の作成 ③版木にインクつめ ④各自の机にて、ばれんを用いて刷る ⑤画面の確認。 ⑥必要があれば彫りなおしを行う。 ○試し刷りの方法を繰り返して刷る。 ○刷った作品は乾燥棚で乾燥させる。	○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 ○試し刷りの注意点 ①画面の木くずをとる。 ②インクの乗せ方。 ③彫りなおしの場合のインクおとし。 ウエスでインクをおとす。 ○提出用の2枚を含めて、6枚程度刷ることが可能であることを生徒に周知させる。
12月	⑦着彩 アクリルガッシュ絵の具を使用。 エディションナンバーを書き入れる。 ⑧提出 名札を貼って提出。	○画面の白い部分に着彩することで単色では表現しにくい多彩な見え方を挑戦する。 ○提出場所は教室内の乾燥棚	○着彩の注意点 ①絵の具は水でよく薄める。 ②白い部分も残す。 ③全体のバランスを考える ○エディションナンバーを書き入れる。

12月	○作品提出の確認。 ○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像の提出を促す。	○作品に名札を付けていない生徒に連絡する。 ○作品未提出者に連絡する。	○欠席者に対応 ロイロノートに画像を提出もしくは作品実物を美術準備室に提出する。
3学期 1月 2月	○3学期課題 「デッサン1」 鉛筆スケールと手のデッサン ①スケール用の10マスを描く ②手のデッサン 画用紙は縦、横自由。 ○「静物デッサン」 果物、野菜、グラス、幾何学的立体物 etc。 画用紙1枚にデッサンを描く。 ○提出 ○美術史を学ぶ。 現代アート	○画用紙1枚配布する。 各自のスケッチブックに挟んで保管すること。 ○黒板に作画する。生徒と同時進行で作画することで、より分かりやすく説明する。 ○各自の手をモデルとしてデッサンする。 ○手首から下15cm程度まで描く。 ○参考作品を鑑賞する。 ①手の輪郭線を観察しながら描く。 ②陰影を描く。 ③明暗の観察を行ない、描き込んでいく。 ○画用紙1枚に静物デッサンを描く。 ○デッサンの基本的な技術を学ぶ。 ○作品に名札を付けてクラスごとに乾燥棚に提出する。 ○芸術の世界の現代を観ることで、多様な世界観を享受する。	○副読本P6～11 ○画用紙に10マスを描く。 ○必要な画材 ①スケッチブック ②鉛筆2H～6B ③定規 ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 欠席者に対応する。 ○参考資料と、作品をロイロノートに画像配信する。 ○静物デッサンのモチーフは美術室の備品もしくは、個人が持参したモチーフを描く。 ○名札の付け忘れの確認。 ○教科書、副読本を使い参考資料を見る。

3 学 期 3 月	○芸術の世界を紹介する。 自分の感想や考えを文章、 もしくは発言する。	○多様な芸術表現を、どう観 るか、それぞれが考えるき っかけになるように授業を 進める。	○プリント1枚に記入しなが ら授業を進める。 ○参考資料を鑑賞しながら 具体的に作品の解説を行う ○プリントを提出。 ○ロイロノートに配信する。
	○3学期課題の提出 ①デッサン画2枚 ②美術史現代アート プリント1枚	○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像を 提出。	○欠席者に対応。 学校登校時に作品実物を 提出するように連絡する。

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> ○対象をよく観察し描写することができる。 ○表現する内容を深く思考する能力がある。 ○丁寧な作業工程である。 ○芸術に対して好奇心をもち、工夫をすることができる。 ○作品の完成度を高め、上げることができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の作品への取り組み 方。 ○授業中の制作態度。
<思考力・判断力・表現力> ○個性豊かな感性であること。 ○アイデアなどの発想力が豊かであること。 ○作品の内容を深く思考することができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の制作態度。 ○制作途中のスケッチブック のエスキース。
<主体性・多様性・協働性> ○画材や道具を正しく扱うことができる。 ○制作の準備を整えることができる。 ○教室内の片付けを行うことができる。 ○他の人の作品に対し、認め合い配慮することができる。	○授業中の様子。 ○授業後の片付けの様子。 ○画材の扱い方。 ○文化祭の準備の様子。 ○画材の忘れ物

【提出物状況の評価基準】

- A：作品が完成した状態で提出期限を守り、名札を貼っている。
（ロイロノートに画像を提出した場合、個別に対応する）
- B：作品は完成し、名札を貼っている状態だが、提出期限を守っていない。
- C：「努力を要する」状況と判断される
- D：作品未提出の状態。